

4月 新体制・新講座がスタートします

東北大学病院循環器内科 安田 聡



平素大変御世話になりありがとうございます。最初に先月3月16日夜に発生した福島県沖地震で被害に遭われた皆さまには心よりお見舞い申し上げます。当医局も棚が崩れ書籍類が散乱し2011年3月11日のような状況となりました。災害対策本部が立ち上がり状況確認にあたるのと同時に、地震直後に発症・搬送されたST上昇型急性心筋梗塞症例に対する緊急検査・治療にも対応いたしました。また早朝より医局員が集まり現状復帰に努め、遅滞なく診療活動、コロナ対応にあたっています。

さて、4月から東北大学循環器内科でも新入医局員を迎え新体制がスタートしました。私ども循環器領域の診療において大きな武器となりますカテーテル診断装置が更新されることになりました。画像



診断システムも併せてアップグレードし、診療活動がますます充実することが期待されます。また同じく4月より、「先制循環器医療学寄附講座」を新たに開講いたします。植込み型ショックデバイスを使用している心不全患者でのデバイスから得られた遠隔モニタリングの生体データをもとに、人工知能(AI)を用いた心不全および不整脈の予測アルゴリズム等の研究開発を目指してまいります。本年度も東北大学循環器内科をどうぞよろしくお願いいたします。

新カテーテル診断装置：Philips社製 Azurion 7 B12/12

東北大学循環器内科では年間約1600例の心臓カテーテル検査・カテーテル治療を実施しており、COVID-19の状況下でも血管撮影室は順調に稼働を続けております。それらカテーテル検査・治療のほとんどが東北大学病院32番、33番血管撮影室に設置された2基のシーメンス社製シネアンジオ装置で行われてきましたが、先(2006年)に設置された33番血管撮影室アンジオ装置が機能老朽化のため更新されることになりました。大幅な被爆低減と高画質を両立した血管撮影装置としてPhilips社製Azurion 7 B12/12が2022年4月下旬より稼働いたします(図)。同時に、安田教授のご尽力により病院全体の総合画像診断システム(PACS)も更新され、血管内イメージング画像やカルトシステム画像など様々な画像診断システムの機能が充実し、本学が掲げる高度先進医療の提供と循環器医療の質向上が図られるものと存じます。同門の先生方、近隣のご開業・クリニックの先生方におかれましては心臓カテーテル検査・

治療が必要な患者様がございましたら、ぜひ東北大学病院循環器内科新患外来にご紹介ください。(文責：高橋 潤)



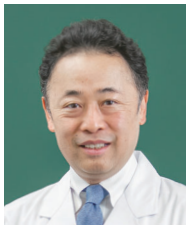
新カテーテル診断装置：Philips社製 Azurion 7 B12/12

先制循環器医療学寄附講座

高齢者における「健康寿命の延伸」を実現するための循環器病治療の新規医療技術・治療法の開発目的で、令和4年4月1日に先制循環器医療学寄附講座が開設されました。高齢者の未曾有の増加と少子化の影響により我が国における高齢化率は上昇し続け、宮城県では既にその割合が30%を超えた地域も決して少なくありません。高齢者での急速に増加している心不全への対策は喫緊の課題と考えられます。近年、心不全の増悪因子としての心房細動や、突然死に係る致死性不整脈に対するアプローチ、心不全と不整脈との連関が注目されており、心房細動に

対するカテーテルアブレーションの機器やペースメーカ・植込み型除細動器・心室再同期療法などの植込み型デバイス機器を含めたイノベーションが次々と起こっています。今後、安田聡教授(併任)のもと、4月から着任した佐藤宏行助手とともに、植込みデバイスから得られた生体データや研究協力施設の臨床データについて、機械学習やディープラーニングなどの手法を用いた人工知能(AI)解析を行うことで、病態発症のメカニズムの解明や介入すべきリスクファクターの同定および臨床応用可能なアルゴリズムを含めた新規治療機器の開発を行います。(文責：野田 崇)

各担当者の紹介



副科長・虚血G主任 高橋 潤 (准教授)

虚血グループを担当しております高橋 潤 (たかはし じゅん) です。当グループは虚血性心疾患を対象に心臓カテーテル検査・冠動脈インターベンション治療を担当するとともに、心臓外科・麻酔科の先生方とハートチームを組織し重症大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁置換術 (TAVI) を精力的に行っております。今年度から経皮的僧帽弁クリップ術も開始いたします。エビデンスに基づいた診断・治療を行い、一人でも多くの患者さんの予後・QOL の改善のため全力を尽くす所存です。



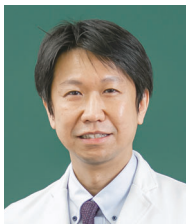
医局長 白戸 崇 (特任准教授)

医局長の白戸 崇 (しろと たかし) です。昨年度に引き続き、安田教授の指示の下、円滑な医局運営に尽力する所存です。関連病院・開業医の先生方、同門会の先生方におかれましてはご意見・ご助言等ございましたら遠慮なくお申し付けください。また、特定機能病院における逆紹介割合の改定に伴い、紹介患者数の増加と再来患者数の削減が必要となっておりますので、ご協力のほど宜しくお願い致します。



CCU主任 野田 崇 (講師)

CCU 主任を担当させて頂いております 野田 崇 (のだ たかし) と申します。平素は循環器救急患者のご紹介を含め、当科 CCU 運営にご理解を賜り、誠にありがとうございます。重症化および多様化する循環器疾患に対応するため、安田聡教授のもと引き続き全グループ一丸となって、多角的な高度医療を提供していきたいと考えております。今後とも変わらぬご支援の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



心不全G主任 高濱 博幸 (講師)

心不全グループ主任の高濱博幸 (たかはま ひろゆき) と申します。赴任後 1 年が経過しました。引き続き心不全患者の診療に取り組んで参りますのでよろしくお願い申し上げます。また昨年 9 月より病棟医長を拝命しました。円滑な病床運営に取り組んで参りたいと存じます。引き続きよろしくお願い申し上げます。



不整脈G主任・外来医長 中野 誠 (病院講師)

HEART をご覧の先生方、いつも症例のご紹介をいただき、誠にありがとうございます。東北大学病院循環器内科不整脈グループでは、安田教授のご指導の下、不整脈疾患に対する高度医療、特にカテーテルアブレーション、植え込み型デバイス治療を精力的に行っております。不整脈治療の分野は近年その進歩が著しく、以前では治療困難と思われた症例でも効率よく治療できる可能性があります。治療適応の症例はもとより、判断に迷われる症例も含め、ぜひご紹介ご相談ください。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



肺循環G主任 矢尾板信裕 (病院講師)

東北大学循環器内科循環グループ主任を務めます矢尾板信裕 (やおいた のぶひろ) と申します。当グループは肺高血圧診療と成人先天性心疾患に重きをおいて診療しております。東北大学の肺高血圧診療の歴史は東日本でも古く、様々な経験とデータを蓄積し、最先端の治療、研究を行ってまいりました。また成人先天性心疾患や肺高血圧症の治療は、その特殊性から治療困難と思われがちですが、当グループでは豊富な経験とデータから最適な加療を行っております。早期加療が必須ですので、疑われましたらすぐにご紹介頂ければ幸いです。

循環器内科 急患ホットライン 080-2801-1810 (常時受付)

患者さんのご紹介・ご相談は： ☎ 022-717-7153 (医局) / 7156 (FAX) / 7728 (外来) / 7786 (病棟)

本誌「HEART」へのご意見・ご質問は： ✉ kikanshi@cardio.med.tohoku.ac.jp

当科HP URL： <https://www.cardio.med.tohoku.ac.jp/2020/jp/> 公式Twitter： https://twitter.com/cardio_tu